資料　1

「ふくいの森林・林業のあり方検討会」の概要

１　目　　的

県では、令和２年３月に本県の森林・林業の指針となる「ふくいの森林・林業基本計画」を策定し、令和２年度から６年度までの５年間に取組むべき方策を示した。

県独自の施策であるコミュニティ林業をはじめ、木材加工や流通、里山資源の活用などを含めた施策を展開することとし、間伐を推進するだけでなく主伐も進め、生産性の向上、発電や熱利用による木質バイオマスの需要拡大により県産材の生産量を２５万㎥近くまで増加するなどの成果をあげてきている。

一方、県内の森林は昭和４０年代後半に造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎えつつあり、資源量が年々増加しているにもかかわらず、その資源が十分に利用されていない状況である。このような中、県内の森林・林業・木材産業の状況を見ると、新設住宅着工戸数や製材工場の減少といった厳しい状況がある反面、県産材生産量の着実な増加や県産材製品の都市圏・海外での需要拡大など明るい兆しもある。

本検討会では、こういった情勢の変化や将来の環境変化を踏まえ、本県の森林・林業・木材産業の目指すべき姿や今後５年間に展開していく施策を検討することを目的とする。

２　委員構成

木材生産、木材加工、木造建築、自伐型林業、担い手確保、自然教育の関係者
および学識経験者（１０名）

３　計画策定までのスケジュール

令和６年度											
４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
			第１回あり方検討会			第２回あり方検討会		森林審議会	第３回あり方検討会	パブリックコメント	新計画策定・公表
				骨子作成			原案作成		最終案作成	パブコメ	